

笠ヶ岳クリヤ谷

2014.10.9～10 単独

「北アルプス全一般登山道踏破」の残り少なくなってきた未踏区間の笠ヶ岳「クリヤ谷コース」を歩いて来ました。当初は8～9日の予定でしたが、剣岳早月尾根コースの後遺症で膝・腰痛の関係から1日遅らせました。その為初日の笠新道ではガスの為に展望は望めませんでした。2日目は快晴で素晴らしい展望に恵まれました。プラマイ0の結果でしたが。膝・腰の状況が良く無くて、コース設定に悩みました。標高差の大きい(約1900M)クリヤ谷を登り、笠新道又は鏡平山荘経由で下山が本来の意味あるコース設定ですが。笠新道も標高差と急坂で有名なので、弱気になり、鏡平山荘～笠ヶ岳山荘の2泊し、クリヤ谷で下山の案も考えましたが、小屋代の事もあり、笠新道で登る事にしました。急坂と標高差の疲れで今日は大事をとって、リンゴの葉むしりのバイトは休みました。歳は取りたくないですね。

10/9 (木) 曇り時々ガス 自宅 3:25～5:20 新穂高温泉登山者専用駐車場

(1090M) 5:30～6:55 笠新道入り口 (1370M) 7:00～(昼食)

10:50 杓子平 (2400M) ～12:30 抜戸岳分岐～13:40 笠ヶ岳山荘

(泊、宿泊者約30名)

10/10 (金) ガスのち快晴 6:20～6:30 笠ヶ岳 (日本百名山、2897M)

ガスが上がるのを待って 7:30～10:50 最終の水場 (昼) 11:10～

12:45 大岩のあるテン場？錫杖岳への踏み跡がある箇所～13:30 第一
渡渉点～14:15 登山口～14:25 新穂高の湯（入浴）15:00～15:16 発の
バスに乗車～15:20 P 15:35～15:50 平湯の森で入浴 17:00～
18:30 帰宅 総走行 166KM

当初計画の前泊で無く、早朝出発した。登山口の駐車場は今日も平日・早朝
と言うのに満車状況、利用率の高い所だ。バス停前の新設されたトイレはとて
も綺麗だが利用率から見ると少し狭い感じがする。無料の温泉は撤去されてし
まった。

5:45 明るくなった林道（笠新道入り口まで 3.5KM）を歩き出す。橋から
先ゲートまで路上駐車が出来ないようになっている。有料駐車場の利用率を高
めるためか？日本百名山挑戦の時も笠新道を登ったが急坂だった事を思い出
す。入り口からいきなりの急登でスタート。

笠新道入り口



夏なら大汗をかくだろう。この時期
の登山は気温が低いので、汗も少な
いし、水も少なくて済むので楽だ。
途中で同年齢の男女4人組に抜かれ
るが気にしない。（小屋で会話したら

神奈川県からでリーダーは74歳、全員70歳代のようだがお元気だ）予想に

反して天気が良く無い。この登山道の紅葉は綺麗では無かった。今日は荷を軽くしたので正解だ。

中崎尾根と奥丸山、上は穂高連峰

100M毎に標識あり便利



途中でNHK衛星の6人程の撮影隊を追い抜く、「日本百名山・笠ヶ岳」の撮影のようだ。杓子平はカール状地形であるがクサモミジも綺麗では無い。

杓子平のカール



ガスで展望がないのでつまらないコースになった。心配した膝の違和感も無く小屋に早く着く事ができた。夕食は何処の小屋も17:00からなので、最近の小屋への到着時間が何時も15:30頃

だったので、今日はユックリ飲める。食堂兼談話室にはストーブが焚かれて暖かい。

山荘前で



美味しかった



皆 60～70 歳代だ。寝不足だし、早めに休む。明日は晴れて欲しい、好展望の場所だし。

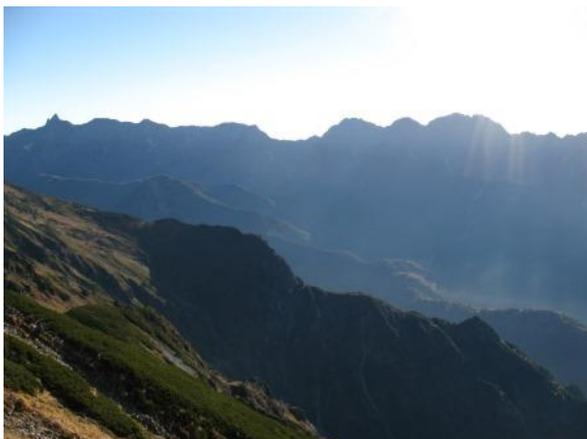
笠ヶ岳山頂



ブロッケン



槍～穂高連峰の大展望、逆光



残念ながら2日目もガスで展望無だが好天になりそうなので、山頂へ向かう。懐かしい山頂では、久しぶりにブロッケン現象を何回も見る。ガスの上がるのを気長に待つ。

7時過ぎになってガスが上がり大展望を楽しむ。

これから下るクリヤ谷コース。左上は焼岳

噴煙を上げる御嶽山



からの槍・穂高の展望は蝶ヶ岳に次ぐ素晴らしさだと思う。今年登った西穂・
劔・黒部五郎・雲の平・水晶等懐かしい山々を眺める。富士山、噴煙を上げる
御嶽山も見える。正に大展望だ。冥土の土産にシッカリ脳裏に焼き付ける。

大槍・小槍と西鎌尾根、槍ヶ岳山荘も見える

槍～穂高、中央は大キレット



今日クリヤ谷へ下山するのは私一人だけだ
が私にとっては今回の主目的だ。30分ほ
ど下った地点で道間違えで30分時間をロ

スする。昔のペンキ印なのか、谷へ下りるマークがあったので。登山道は細いが要所にはペンキ印があるので以降は順調に下るが案内板がほとんど無いので現在地の判断が天候の悪い時は難しいと感じた。(劔早月尾根は 200M毎に、昨日の笠新道は 100M毎に標識があったが) 途中でハイマツの枝に足を取られて派手に登山道から転落するがハイマツ帯だったので助かった。手袋・帽子も役立った。命の次に大事な人工内耳のプロセッサも飛んでしまったが見つかって機械も無事だったので一安心するが足元重視が重要だ。展望を楽しみながらの下山が続く。もう時間的に登ってくる登山者はいないだろうと思って大分たった時に、最終水場の手前で30歳代の単独行が登って来た。何時に登山口を出たの?と聞くと「8時」との事。思わず「遅いね!」と言ってしまった。彼は「宿に泊まって朝食を食べたので」と言った。若いので早く歩けるとは思うけど、登り 9:40 のこの標高差の大きいコースを歩くにはこの時期はうす暗い頃から歩き出すのが鉄則だと思うが。錫杖岳が近づくとも紅葉が綺麗だ。

笠ヶ岳を振り返る



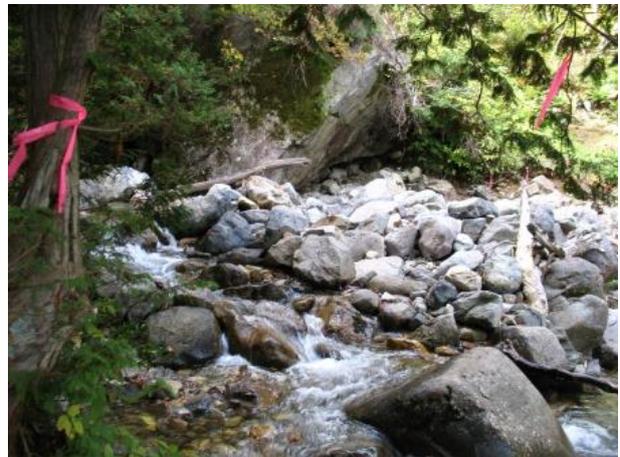
見事な紅葉と錫杖岳



もみじやカエデなどが多いせいも、今まで見た紅葉ではトップクラスの登山道である。(写真を見直すとたいした事は無いように見えるが実際はとても綺麗だった) ヤマケイの紅葉特集に載せても良いと感じたが。大岩の下部がえぐれていてテン場に良さそうな箇所に着する。南アルプス鋸岳登山の際にテン泊した「大岩下ノ岩小屋」を思い出す。どうもロッククライマーが利用するようで、錫杖岳(2168M、正規な登山道は無い)・エボシ岩方面に踏み跡がある。

ロッククライマーの聖地

渡渉点



ゴミが多いのが気になった。沢を何回か渡渉する箇所があったが、ほとんど水量が少ない。下山時に最後となる渡渉点のみ増水すると大変かなと感じたが。ゴンドラや中尾高原の家並みが段々近づくといくると登山口が近いと分かるが悪天候時は現在地が分かりづらい登山道だ。(案内標がないので、このコースは高度計があると便利だ) 予定より早く登山口に到着する。岐阜県は下山届も必要である。其のために登山・下山届用のポストを登山口には設置してある。記入するためにテーブルが引出し式になっていた。今回の御嶽山の災害でも感

じたがこんなシステムを全ての登山口に設置すべきだと思うが。北海道のように「ノート形式」だと個人情報の問題があるし。

登（下）山届ポスト



ともあれハードルが又一つ突破できた。通り道だし、バスの待ち時間もあったので、珍しく「新穂高の湯」で入浴したが、入浴客が意外に多かった。これについては「ブログ」に掲載します。帰路またまたお気に入りの平湯の森で入浴する。歩きでのある山行に満足しました。

新穂高の湯で入浴

